

○第2次検討ダムのレビューについて

		影響評価の実施(2005~2007年)	イワウベツ川			
主項目	調査項目/評価項目	本流			盤ノ川	
		7(林)	3(林)	4(林)	追2橋(斜)	
第1次検討結果	1. 河川工作物以外の遡上、生息阻害の有無	滝(落差)	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし
		ph	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし
		主項目1の評価	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし
	2. 河川工作物が主要原因か	河川工作物の落差と越流水深	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難
		プール水深と広がり	遡上可能	遡上可能	遡上可能	どちらともいえない
		主項目2の評価	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難
	3. 上流の遡上・産卵・生息環境の有無	水面幅(平水時)	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
		水深(平水時)	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
		河床の組成	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
		河川形態	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
		濁水の混入の有無	なし	なし	なし	なし
		水温	環境あり	—	—	環境あり
		河川内の礫上のスギゴケの有無	なし	なし	あり	—
		湧水	—	—	—	—
		河畔林率	大	大	大	小
		枝沢の有無	なし	なし	なし	なし
	主項目3の評価	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	
	4. 上・下流における流出可能土砂量の状況	滞留土砂量	中	中	小	中
		土砂生産源	中	中	大	中
	5. 下流域の保全対象の状況	保全対象の重要性	高い	高い	高い	
6. 改修に伴う河川周辺生態系への影響	産卵床の保全性	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	
	生態系の保全性					
その他参考事項		過去に10~15年おきに土石流が発生。昭和54、56年に激甚災害を受けている。ダム堆砂数には土石流による巨礫が過積している。	過去に10~15年おきに土石流が発生。昭和54、56年に激甚災害を受けている。	昭和54、56年に激甚災害を受けている。直上流には土石流による巨礫が貯留している。		
7. 工作物改修等に伴う防災機能等への全体的な影響	専門家の意見を踏まえた総合評価	現状維持が適当	下流側の工作物(7.3)の「現状維持」と併せて考えて現状維持が適当。	下流側の工作物(7.3)の「現状維持」と併せて考えて現状維持が適当。		
第2次検討	レビュー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支流(赤イ川、ピリカベツ川)において6基(町の1基を含む)のダム改良工事を実施</li> <li>・No.7ダム下流が河床低下</li> <li>・斜里町等が本流の下流で河川環境改善事業を実施しており、本河川の環境改善については既に地域で一定の合意がある</li> <li>・土石災害防止のためにはNo7、No.3ダムは引き続き重要であるものの、上流にはNo.4ダム(本流)、No.9ダム(盤ノ川)もある</li> <li>・魚道などによる改良が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上流域は高水温の影響でオショロコマの生息環境が少ない</li> <li>・下流のNo.7、No.3ダムのスリット化等を行う場合には、土石災害防止機能の役割がさらに大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上流にはオショロコマが生息</li> <li>・上流での産卵環境拡大が見込まれ、かつ町道に影響を及ぼさないことを前提に、No.7とNo.3ダムの改良検討に応じた検討を行うことが可能</li> </ul>		
	検討結果	改良検討対象	現状維持	改良検討対象		

○第2次検討ダムのレビューについて

		影響評価の実施(2005～2007年)			
		アイドマリ川		オシヨロッコ川	
主項目					
調査項目/評価項目		1(林)	2(林)	1(林)	
第1次検討結果	1. 河川工作物以外の遡上、生息阻害の有無	滝(落差)	阻害なし	阻害なし	阻害なし
		ph	阻害なし	阻害なし	阻害なし
		主項目1の評価	阻害なし	阻害なし	阻害なし
	2. 河川工作物が主原因か	河川工作物の落差と越流水深	遡上困難	遡上困難	遡上困難
		プール水深と広がり	遡上可能	遡上可能	遡上可能
		主項目2の評価	遡上困難	遡上困難	遡上困難
	3. 上流の遡上・産卵・生息環境の有無	水面幅(平水時)	環境あり	環境あり	環境あり
		水深(平水時)	環境あり	環境あり	環境あり
		河床の組成	環境あり	環境あり	環境あり
		河川形態	環境あり	環境あり	環境あり
		濁水の混入の有無	なし	なし	なし
		水温	環境あり	環境あり	環境あり
		河川内の礫上のスギゴケの有無	なし	なし	あり
		湧水	—	—	—
		河畔林率	大	大	大
		枝沢の有無	なし	なし	なし
	主項目3の評価	環境あり	環境あり	環境あり	
	4. 上・下流における流出可能土砂量の状況	滞留土砂量	小	小	小
		土砂生産源	小	小	小
	5. 下流域の保全対象の状況	保全対象の重要性	高い	高い	高い
6. 改修に伴う河川周辺生態系への影響	産卵床の保全性	中くらい	中くらい	中くらい	
	生態系の保全性				
その他参考事項		上流部には、約80haの地滑り地があり、地滑り地から出た大量の土砂が川を堰き止めて形成したと思われる相泊沼がある。	上流部には約170haの地滑り地がある。		
7. 工作物改修等に伴う防災機能等への全体的な影響	専門家の意見を踏まえた総合評価	河口部に河川と接して漁港が設置されていることから、土砂流出した場合に漁業補償の問題が生じる恐れがある。工作物直下に人家があり、人家付近では河川幅が極端に閉塞していることから、改良により土砂災害防止の効果を下げることは危険である。産卵床に必要な小砂利が少ない。以上のことから当面は現状維持が適当。	工作物直下の道々の橋はクリアランスが低いため、土砂が流出すると大規模に閉塞する可能性があり、工作物改良に伴う上流部の産卵環境の広がりも少ないことから、当面は現状維持が適当。		
第2次検討	レビュー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間の堰が流出し、No.1ダムまでの遡上を阻害する人的要因は消滅</li> <li>・No.1ダム直下の屈曲部に民家等があって川が閉塞していることから、魚道以外の改良は災害防止の観点から困難</li> <li>・民家からNo.2ダム上にある魚止滝までの河川延長が短く、魚道設置による産卵環境拡大がほとんど期待できない</li> <li>・ヒグマ出没対策は、電気柵でも可能</li> </ul>		(第一次検討に同じ)	
	検討結果	現状維持		現状維持	

○第2次検討ダムのレビューについて

主項目		調査項目／評価項目	モセカルベツ川										オッカバケ川		
			1(道)	2(道)	3(道)	4(道)	6(道)	1(林)	2(林)	3(林)	4(林)	5(林)	6(林)	1(林)	2(林)
第1次検討結果	1. 河川工作物以外の遡上、生息阻害の有無	滝(落差)	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし
		ph	—	—	阻害なし	—	—	阻害なし	—	阻害なし	—	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし
		主項目1の評価	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし
	2. 河川工作物が主原因か	河川工作物の落差と越流水深	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難
		プール水深と広がり	遡上可能	遡上可能	遡上可能	遡上可能	遡上可能	遡上可能	遡上可能	遡上可能	遡上可能	遡上可能	遡上可能	遡上可能	遡上可能
		主項目2の評価	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難
	3. 上流の遡上・産卵・生息環境の有無	水面幅(平水時)	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
		水深(平水時)	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
		河床の組成	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
		河川形態	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
		濁水の混入の有無	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
		水温	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
		河川内の礫上のスギゴケの有無	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		湧水	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		河畔林率	大	大	大	大	大	小	小	小	小	小	小	小	大
		枝沢の有無	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	あり
	主項目3の評価	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	
	4. 上・下流における流出可能土砂量の状況	滞留土砂量	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大
		土砂生産源	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大
	5. 下流域の保全対象の状況	保全対象の重要性	高い	高い	高い	高い	高い	高い	高い	高い	高い	高い	高い	高い	高い
6. 改修に伴う河川周辺生態系への影響	産卵床の保全性	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	
	生態系の保全性														
その他参考事項		昭和62年の豪雨により土石流が発生し、ダム堆砂敷に土石流の痕跡が見られる。					昭和62年の豪雨により土石流が発生し、ダム堆砂敷に土石流の痕跡が見られる。					平成2年の低気圧による大雨により河川が荒廃した。			
7. 工作物改修等に伴う防災機能等への全体的な影響	専門家の意見を踏まえた総合評価	現状維持が適当					現状維持が適当					現状維持が適当			
第2次検討	レビュー	(先行河川として具体的改良手法について検討中)	No.1床固工改良後、モニタリングを行い、その結果を基に改良手法を検討			・右岸側の国有林と民有林界に大規模な崩壊地が存在 ・下流に遡上できないダムが存在					(先行河川として具体的改良手法について検討中)				
	検討結果	改良検討対象	改良検討対象			現状維持					改良検討対象				

○第2次検討ダムのレビューについて

		影響評価の実施(2005~2007年)	ショウジ川		ケンネベツ川						
主項目	調査項目/評価項目	1(道)		1(道)	2(道)	3(道)	4(道)	5(道)	6(道)	7(道)	8(道)
第1次検討結果	1. 河川工作物以外の遡上、生息阻害の有無	滝(落差)	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし
		ph	阻害なし	阻害なし			阻害なし			阻害なし	
		主項目1の評価	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし
	2. 河川工作物が主原因か	河川工作物の落差と越流水深	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難
		プール水深と広がり	遡上可能	遡上可能	遡上可能	遡上可能	遡上可能	遡上可能	遡上可能	遡上可能	遡上可能
		主項目2の評価	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難
	3. 上流の遡上・産卵・生息環境の有無	水面幅(平水時)	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
		水深(平水時)	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
		河床の組成	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
		河川形態	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
		濁水の混入の有無	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
		水温	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
		河川内の礫上のスギゴケの有無	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
		湧水	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		河畔林率	大	中	中	中	中	中	大	大	大
		枝沢の有無	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	あり
	主項目3の評価	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	
	4. 上・下流における流出可能土砂量の状況	滞留土砂量	小	中	中	中	中	中	中	中	中
		土砂生産源	中	小	小	小	小	小	小	小	小
	5. 下流域の保全対象の状況	保全対象の重要性	高い	高い	高い	高い	高い	高い	高い	高い	高い
6. 改修に伴う河川周辺生態系への影響	産卵床の保全性	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	
	生態系の保全性										
その他参考事項		崩壊しやすい選急線が確認されている。昭和41年の集中豪雨により土砂が沿岸まで流出した。	昭和40年の台風23、24号の集中豪雨で甚大な被害を受けた。								
7. 工作物改修等に伴う防災機能等への全体的な影響	専門家の意見を踏まえた総合評価	選急線が明瞭に発達した地形で崩壊の可能性が高く、流域内には最近の土砂堆積、土石流痕跡も確認されており、大規模な土砂流出が想定されることから、当面は現状維持が適当。	現状維持が適当								
第2次検討	レビュー	No.1床固工上流域に産卵・生息環境があることから、上流域への遡上を促す	人家近くにあるNo.1ダムを遡上できずにカラフトマス、シロザケが滞留しておりクマの出没が多い。橋からNo.1ダムまで、クマが居ついて町として頻繁なクマ対応をせざるを得ない状況。	No.1床固工改良後、モニタリングを行い、その結果を基に改良手法を検討				(第一次検討に同じ) 粒径の大きい石礫が多数存在し、縦断勾配も急で溪床幅が狭い状況			
	検討結果	改良検討対象	改良検討対象	改良検討対象				現状維持			

○第2次検討ダムのレビューについて

		影響評価の実施(2005~2007年)						
		羅臼川						
主項目	調査項目/評価項目	本流				登山川		
		4(林)	5(林)	1(羅)	20(道砂)	2(羅)	21(道砂)	
第1次検討結果	1. 河川工作物以外の遡上、生息阻害の有無	滝(落差)	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし
		ph	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし
		主項目1の評価	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし	阻害なし
	2. 河川工作物が主原因か	河川工作物の落差と越流水深	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難
		プール水深と広がり	遡上可能	遡上可能	遡上可能	遡上困難	遡上可能	遡上可能
		主項目2の評価	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難	遡上困難
	3. 上流の遡上・産卵・生息環境の有無	水面幅(平水時)	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
		水深(平水時)	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
		河床の組成	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
		河川形態	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
		濁水の混入の有無	あり(温泉水)	あり(温泉水)	なし	あり(温泉水)	なし	なし
		水温	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり
		河川内の礫上のスギゴケの有無	なし	なし	あり	なし	なし	なし
		湧水	—	—	—	あり(温泉水)	—	—
		河畔林率	中	大	大	大	大	大
		枝沢の有無	あり	なし	あり	あり	なし	なし
	主項目3の評価	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	環境あり	
	4. 上・下流における流出可能土砂量の状況	滞留土砂量	大	大	大	大	小	小
		土砂生産源	大	大	大	大	中	中
	5. 下流域の保全対象の状況	保全対象の重要性	高い	高い	高い	高い	高い	高い
6. 改修に伴う河川周辺生態系への影響	産卵床の保全性	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい	
	生態系の保全性							
その他参考事項		昭和36年の低気圧、昭和40年の台風23号で土石流が発生し、昭和41年の集中豪雨に下流域の人家等に甚大な被害が発生した。						
7. 工作物改修等に伴う防災機能等への全体的な影響	専門家の意見を踏まえた総合評価	ダム堆砂敷に設置されている羅臼町の温泉槽に影響を及ぼさず、上流の巨石等の流出にも耐え得る工法とすることは困難であることから、当面は現状維持が適当。	下流にある工作物の「当面は現状維持」及び羅臼町民の約80%の水源地であり、堤本体の改良が構造的に困難であることから、当面は現状維持が適当。	切り下げなどの改良は下流の河川区間や町の取水施設に土砂堆積が想定され、防災上及び利水上の影響があることから、当面は現状維持が適当。なお、オショロコマの移動の確保のための改良の要否については今後の検討とする。	シロザケ、カラフトマス等の母川回帰性のサケ科魚類の遡上等観点からは、下流にある工作物の「当面の間は現状維持」と併せて検討すべきであるが、当該工作物は温泉水の造成のために設置したものであり、現在、その役割を担っていないことから、オショロコマの移動の確保のための改良の要否については今後の検討とする。	下流の砂防堰堤と一体で防災機能を果たしていることから、当面は現状維持が適当。なお、オショロコマの移動の確保のための改良の要否については今後の検討とする。		
第2次検討	レビュー	(第一次検討に同じ)	(第一次検討に同じ)	(第一次検討に同じ)	(第一次検討に同じ)	(第一次検討に同じ)	(第一次検討に同じ)	
	検討結果	・No.5ダムの上方には温泉観光施設があることから、魚類を遡上させるとヒグマとの軋轢が生じる可能性が大 現状維持						



凡例	
落差1m以上の滝	⋯
最初に出現する落差1m以上の滝	⋯
滝出現区間	—
①レキなし(泥状)	—
②主に1~20cm	—
③20cm以上が混在	—
④若 礫 状	—
主たる河床レキ組成	
データ区分点	A, B

河川工作物 凡例			
設置者	森林管理局	斜里町	さげ・ます 増殖事業協会
工種	コンクリート	治山工	鋼製
治山工	—	—	—
鋼製	—	—	—
流路工	—	—	—
橋 脚	—	—	—
その他	—	—	—

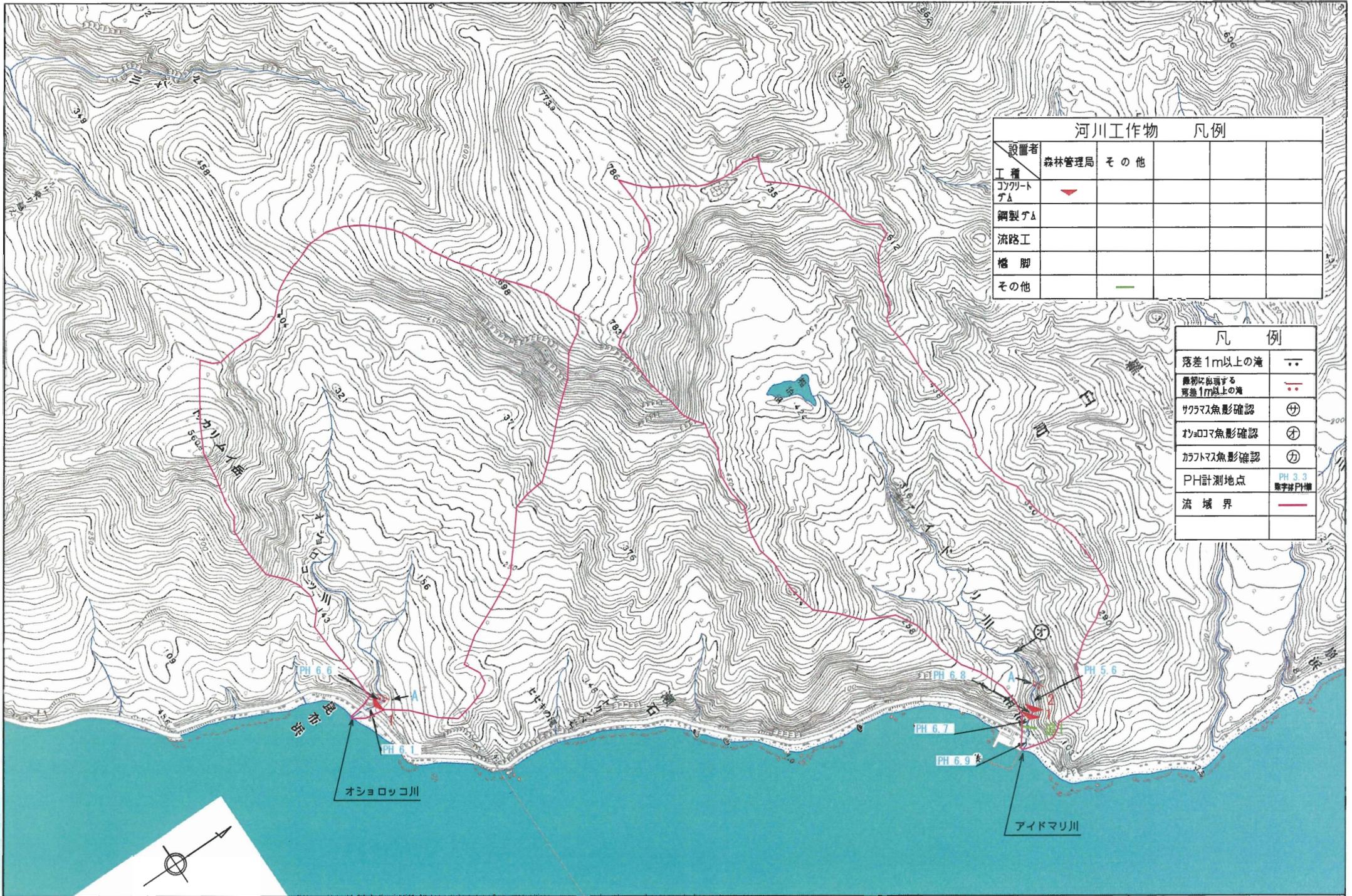
平成 17 年度 河川工作物WG 河 川 : イワウベツ川  
 図面名 : 河川工作物及び河川環境の状況 縮 尺 : 1 : 25,000



平成 17 年度  
 河川工作物WG  
 河川：イワウベツ川  
 縮尺：1：25,000

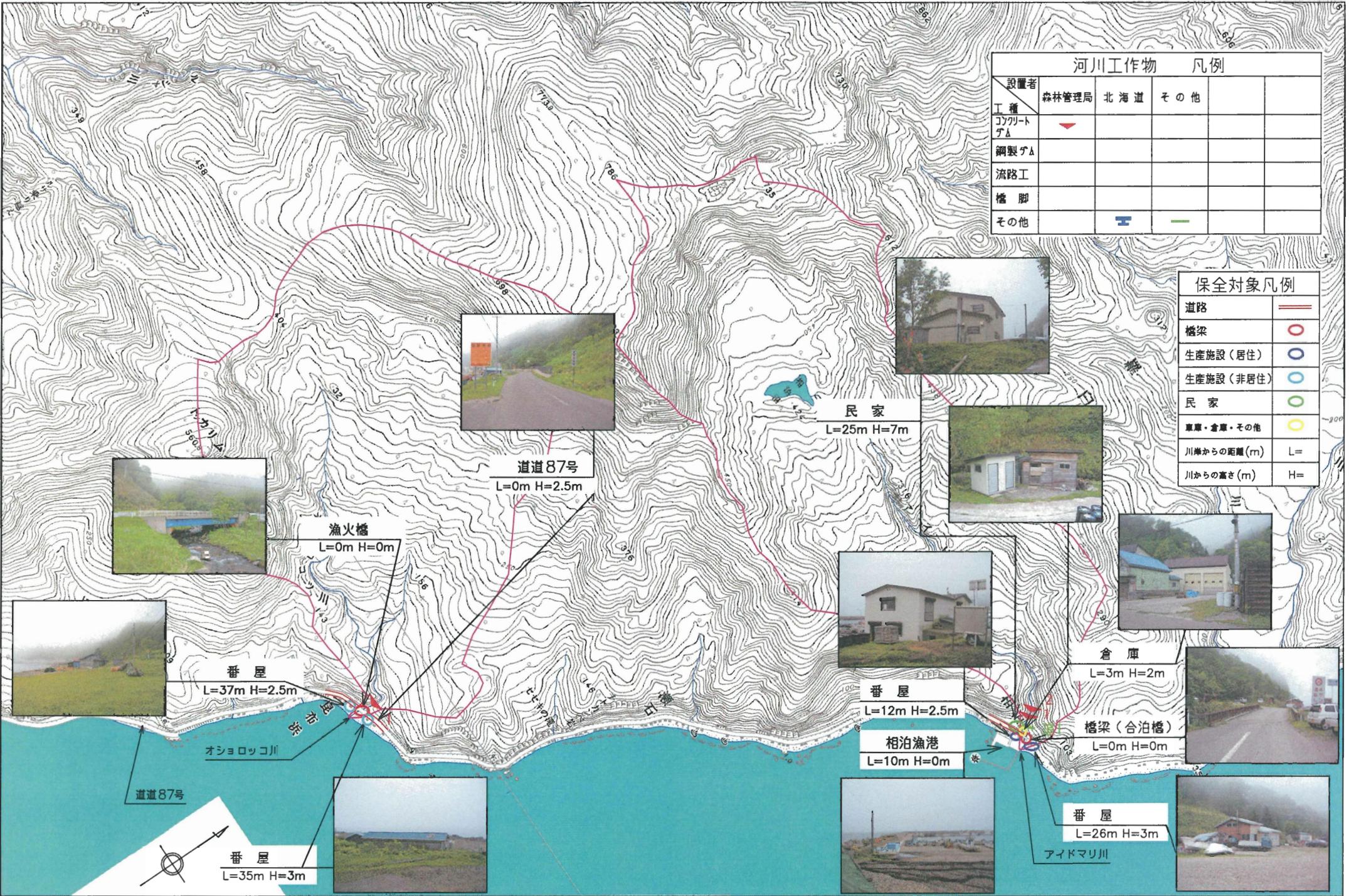
道路	—
橋梁	○
生産施設(居住)	●
生産施設(非居住)	○
民家	○
川岸からの距離(m)	L=
川からの高さ(m)	H=

設置者	森林管理局	斜里町	さけ・ます 増進事業協会	開発局
工種				
コンクリート 治山ゲタ	▲			
鋼製 治山ゲタ	▼			
流路工	≡			≡
橋脚	≡			≡
その他	—	—	—	—



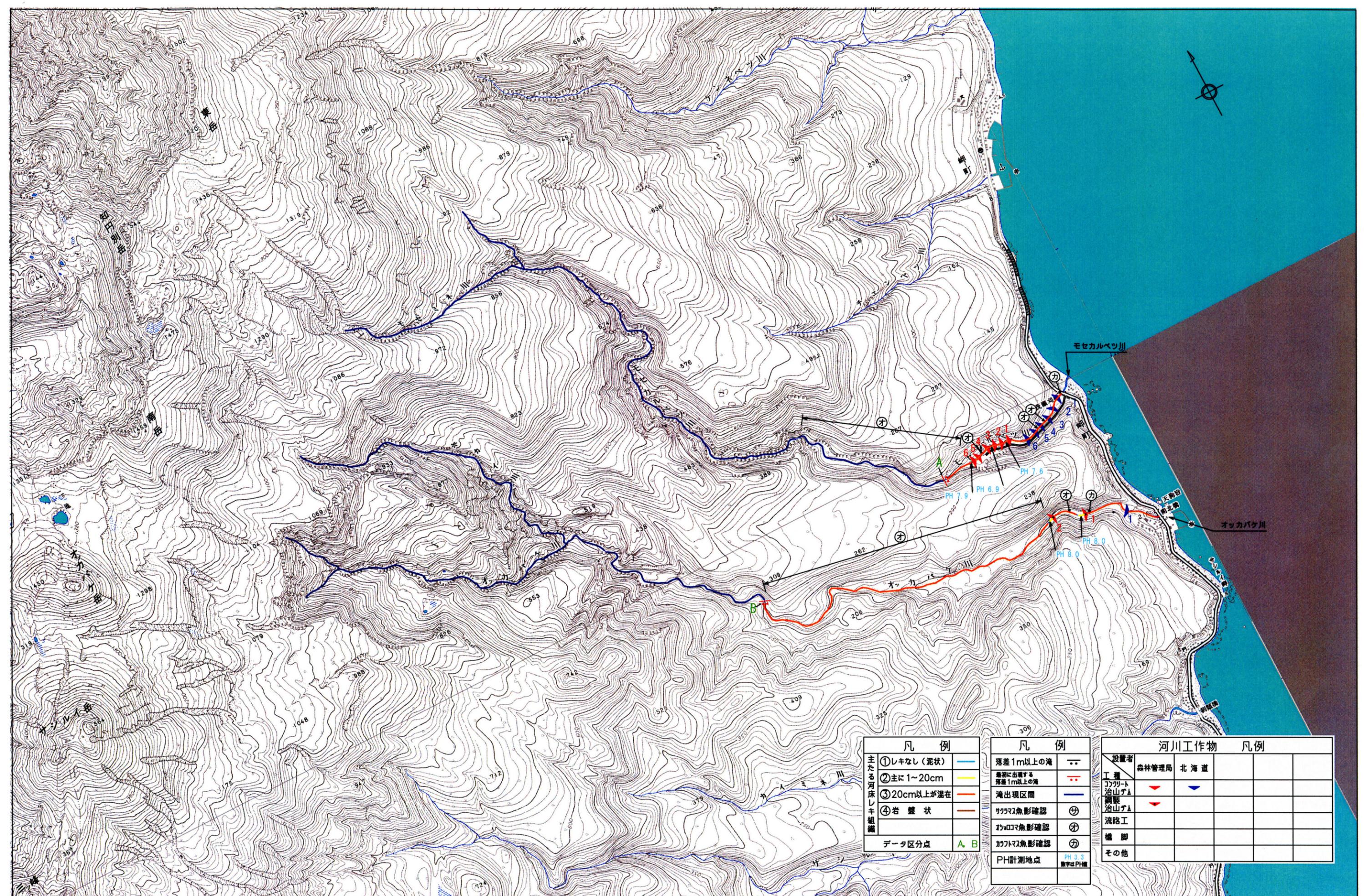
河川工作物 凡例					
設置者	森林管理局	その他			
工種					
コンクリートゲタ	▲				
鋼製ゲタ					
流路工					
橋脚					
その他		—			

凡例	
落差1m以上の滝	≡
最初に出現する落差1m以上の滝	≡
ウツマス魚影確認	⊕
ワコマス魚影確認	⊗
カワマス魚影確認	⊙
PH計測地点	PH 3.3 黒字はPH値
流域界	—



設置者	森林管理局	北海道	その他	
工種				
コンクリートダム	▼			
鋼製ダム				
流路工				
橋脚				
その他		■	—	

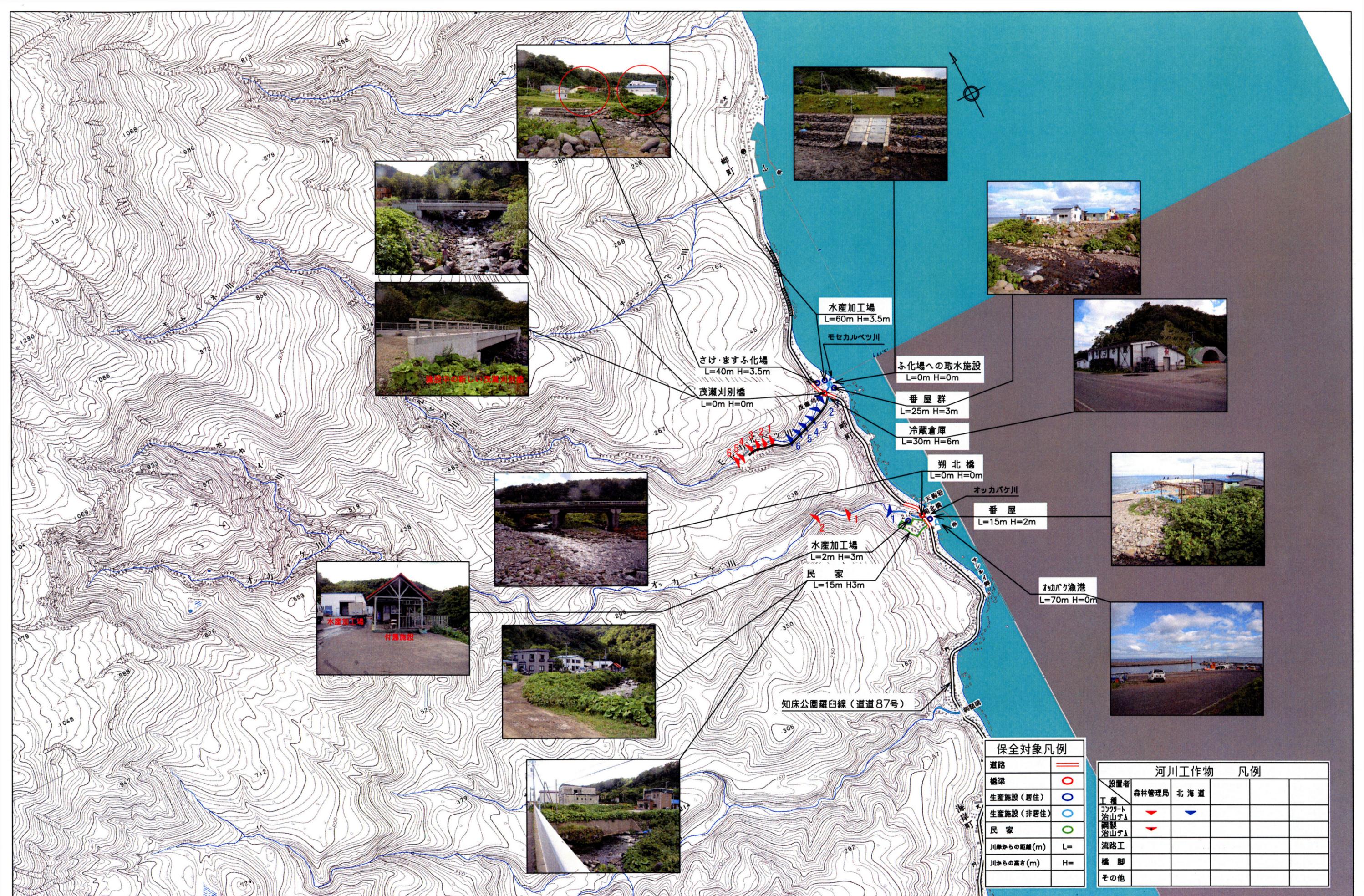
道路	≡
橋梁	○
生産施設(居住)	●
生産施設(非居住)	○
民家	○
車庫・倉庫・その他	●
川岸からの距離(m)	L=
川からの高さ(m)	H=



凡 例	
主たる河床レキ組織	①レキなし(泥状)
	②主に1~20cm
	③20cm以上が混在
	④岩壁状
データ区分点	A B

凡 例	
落差1m以上の滝	—
最初に出現する落差1m以上の滝	—
滝出現区間	—
サケマス魚影確認	⊕
オホシマス魚影確認	⊕
カワトマス魚影確認	⊕
PH計測地点	PH 3.3 数字はPH値

河川工作物 凡例			
設置者	森林管理局	北海道	
工種	コウカト		
	治山ア		
	調整		
	治山ア		
	流路工		
	橋脚		
	その他		



水産加工場  
L=60m H=3.5m

さけ・ますふ化場  
L=40m H=3.5m

茂瀬川別橋  
L=0m H=0m

ふ化場への取水施設  
L=0m H=0m

番屋群  
L=25m H=3m

冷蔵倉庫  
L=30m H=6m

朔北橋  
L=0m H=0m

オッカバケ川  
番屋  
L=15m H=2m

水産加工場  
L=2m H=3m

民家  
L=15m H=3m

オッカバケ漁港  
L=70m H=0m

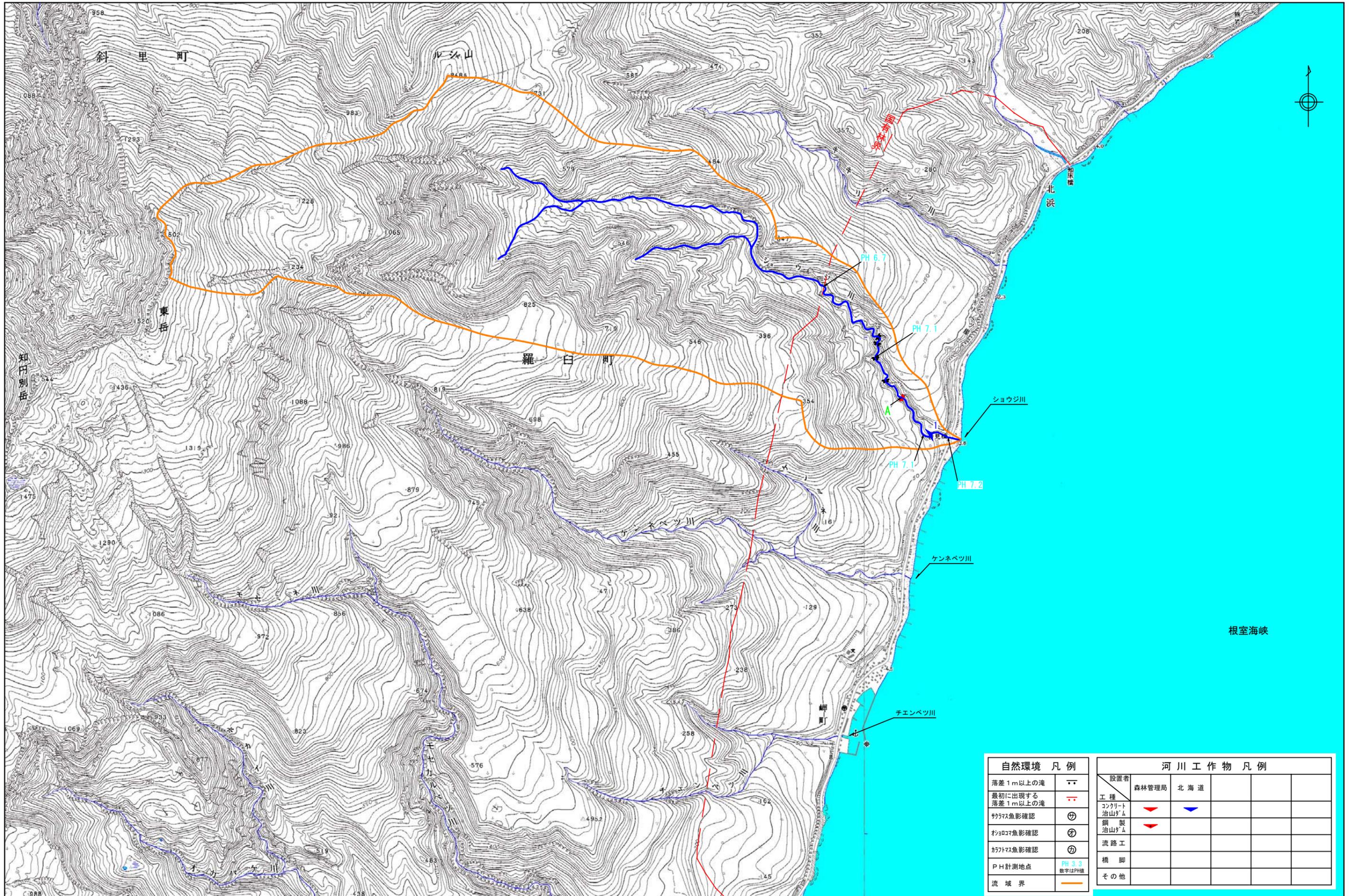
知床公園羅白線(道道87号)

保全対象凡例

道路	==
橋梁	○
生産施設(居住)	●
生産施設(非居住)	○
民家	○
川岸からの距離(m)	L=
川岸からの高さ(m)	H=

河川工作物 凡例

設置者	森林管理局	北海道		
工種				
コンクリート				
治山テA	▲	▲		
鋼製				
治山テA	▲			
流路工				
橋脚				
その他				



12

平成 18 年度

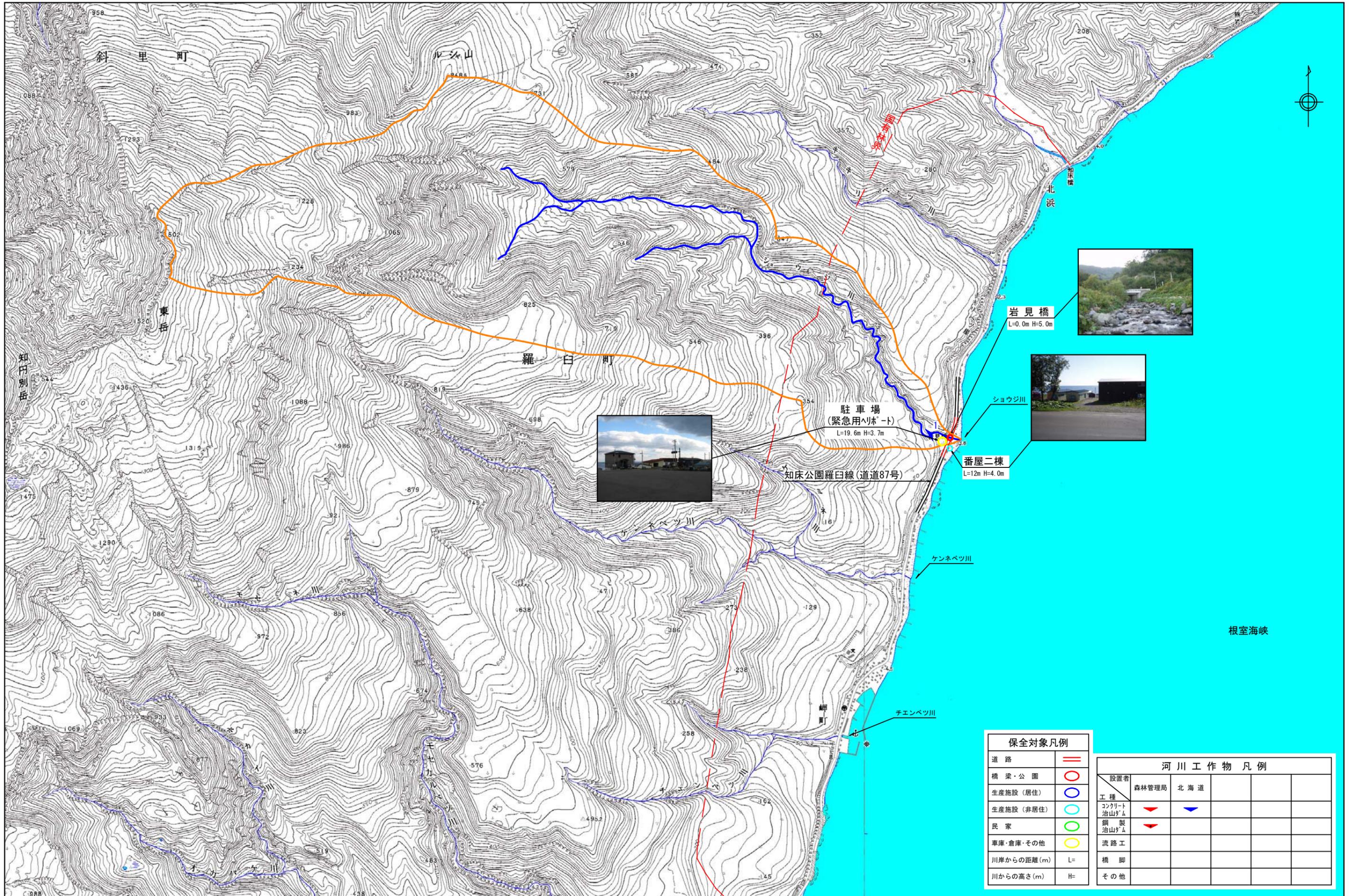
河川工作物 W G

河川 : ショウジ川

図面名 : 河川工作物及び河川環境の状況

縮尺 : 1:25,000

自然環境 凡例		河川工作物 凡例			
落差 1 m 以上の滝	⋯	設置者	森林管理局	北海道	
最初に出現する 落差 1 m 以上の滝	⋯	工種			
サケマス魚影確認	⊕	コンクリート 治山ダム	▲	▲	
サケマス魚影確認	⊗	鋼製 治山ダム	▲		
サケマス魚影確認	⊙	流路工			
PH 計測地点	PH 3.3 数字はPH値	橋脚			
流域界	—	その他			



岩見橋  
L=0.0m H=5.0m



駐車場  
(緊急用ヘリポート)  
L=19.6m H=3.7m

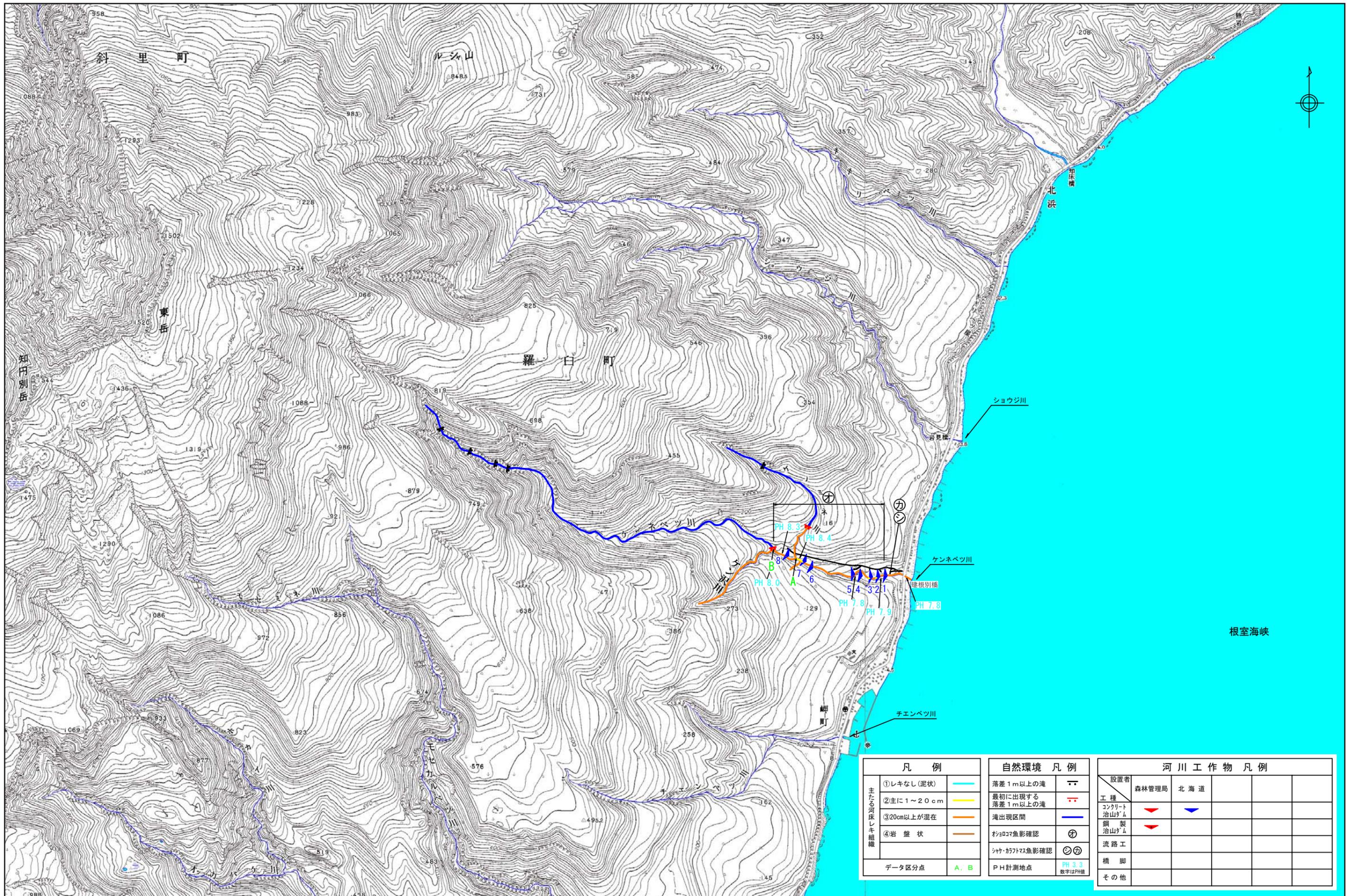


番屋二棟  
L=12m H=4.0m



保全対象凡例	
道路	==
橋梁・公園	○
生産施設(居住)	●
生産施設(非居住)	○
民家	○
車庫・倉庫・その他	○
川岸からの距離(m)	L=
川からの高さ(m)	H=

河川工作物凡例				
設置者	森林管理局	北海道		
工種				
コンクリート 治山ダム	▼	▼		
鋼製 治山ダム	▼			
流路工				
橋脚				
その他				



凡例		自然環境 凡例		河川工作物 凡例					
主たる河床レキ組織	①レキなし(泥状)		落差1m以上の滝		設置者	森林管理局	北海道		
	②主に1~20cm		最初に出現する落差1m以上の滝		工種				
	③20cm以上が混在		滝出現区間		コンクリート治山ダム				
	④岩盤状		砂コウマ魚影確認		鋼製治山ダム				
データ区分点	A, B	シャケガトマス魚影確認		流路工					
		PH計測地点		橋脚					
				その他					

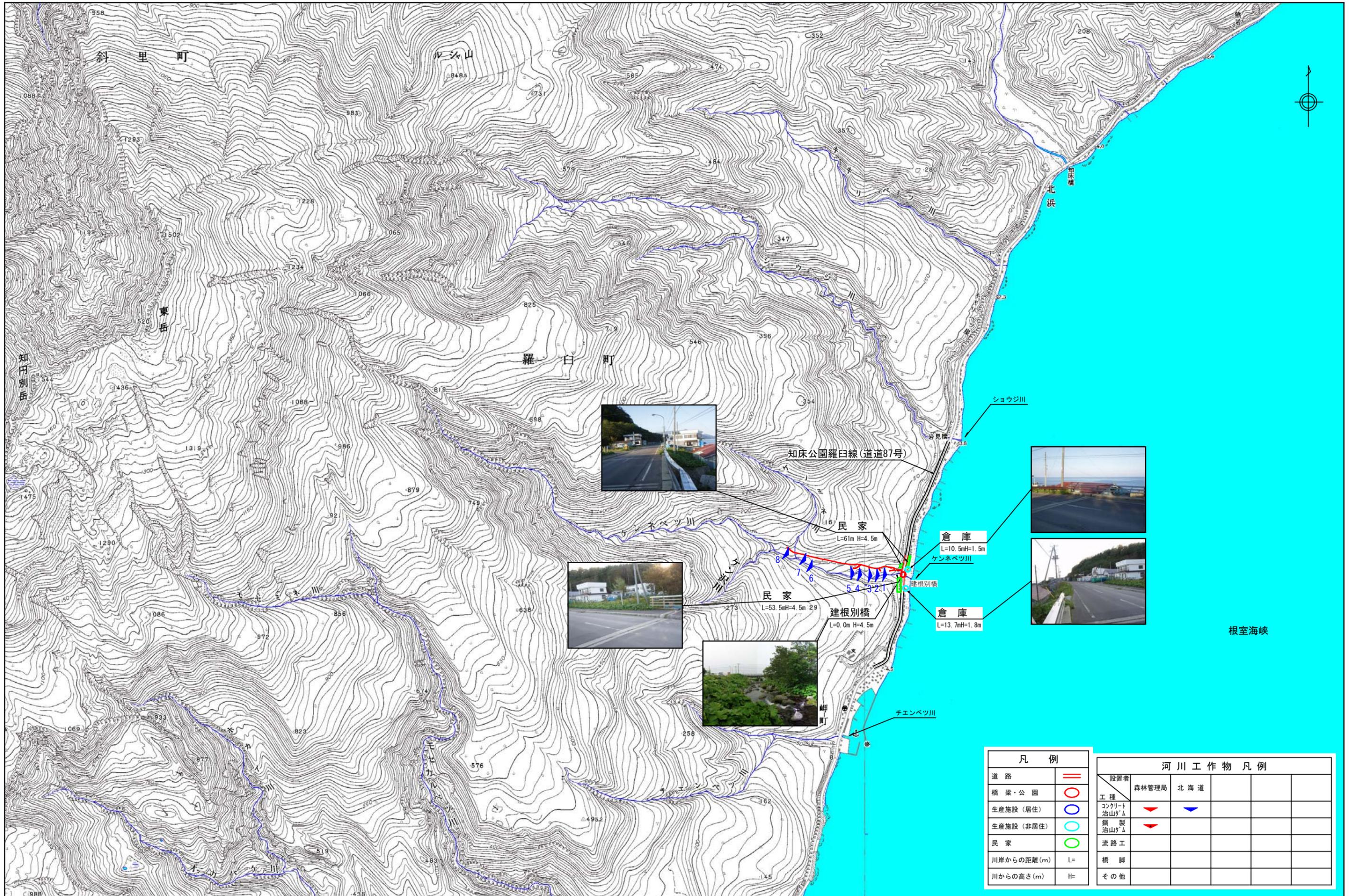
平成 17 年度

河川工作物 W G

河川 : ケンネベツ川

図面名 : 河川工作物及び遡上環境の状況

縮尺 : 1:25,000



知床公園羅白線(道道87号)



民家  
L=53.5m H=4.5m



建根別橋  
L=0.0m H=4.5m



倉庫  
L=10.5m H=1.5m



倉庫  
L=13.7m H=1.8m

根室海峡

凡例		河川工作物凡例						
道路	==	設置者	森林管理局	北海道				
橋梁・公園	○	工種	コンクリート					
生産施設(居住)	●		治山ダム	▲	▲			
生産施設(非居住)	○		鋼製	▲				
民家	○		治山ダム					
川岸からの距離(m)	L=		流路工					
川からの高さ(m)	H=		橋脚					
			その他					

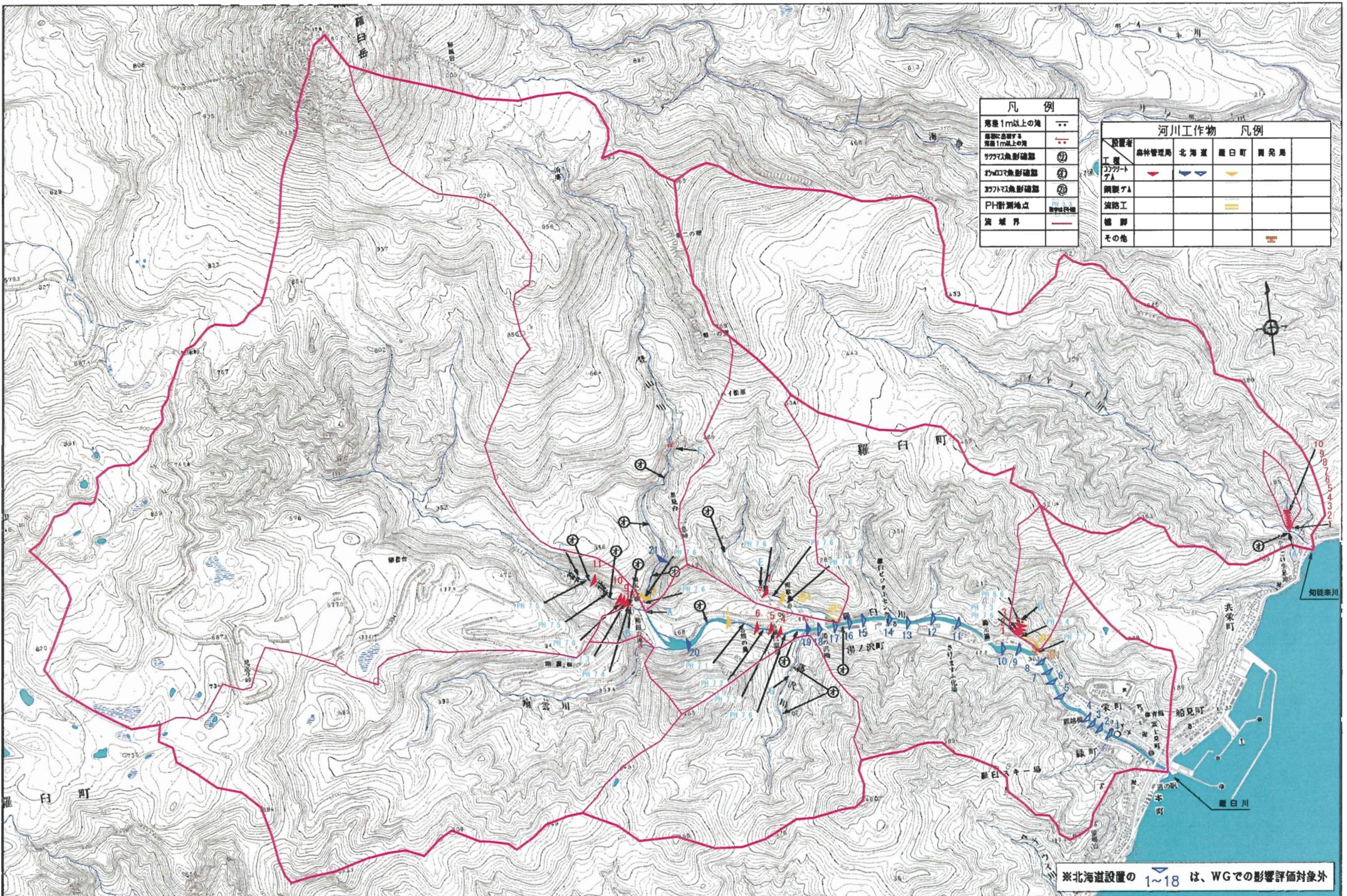
平成 17 年度

河川工作物 W G

河川 : ケンネベツ川

図面名 : 保全対象施設

縮尺 : 1:25,000

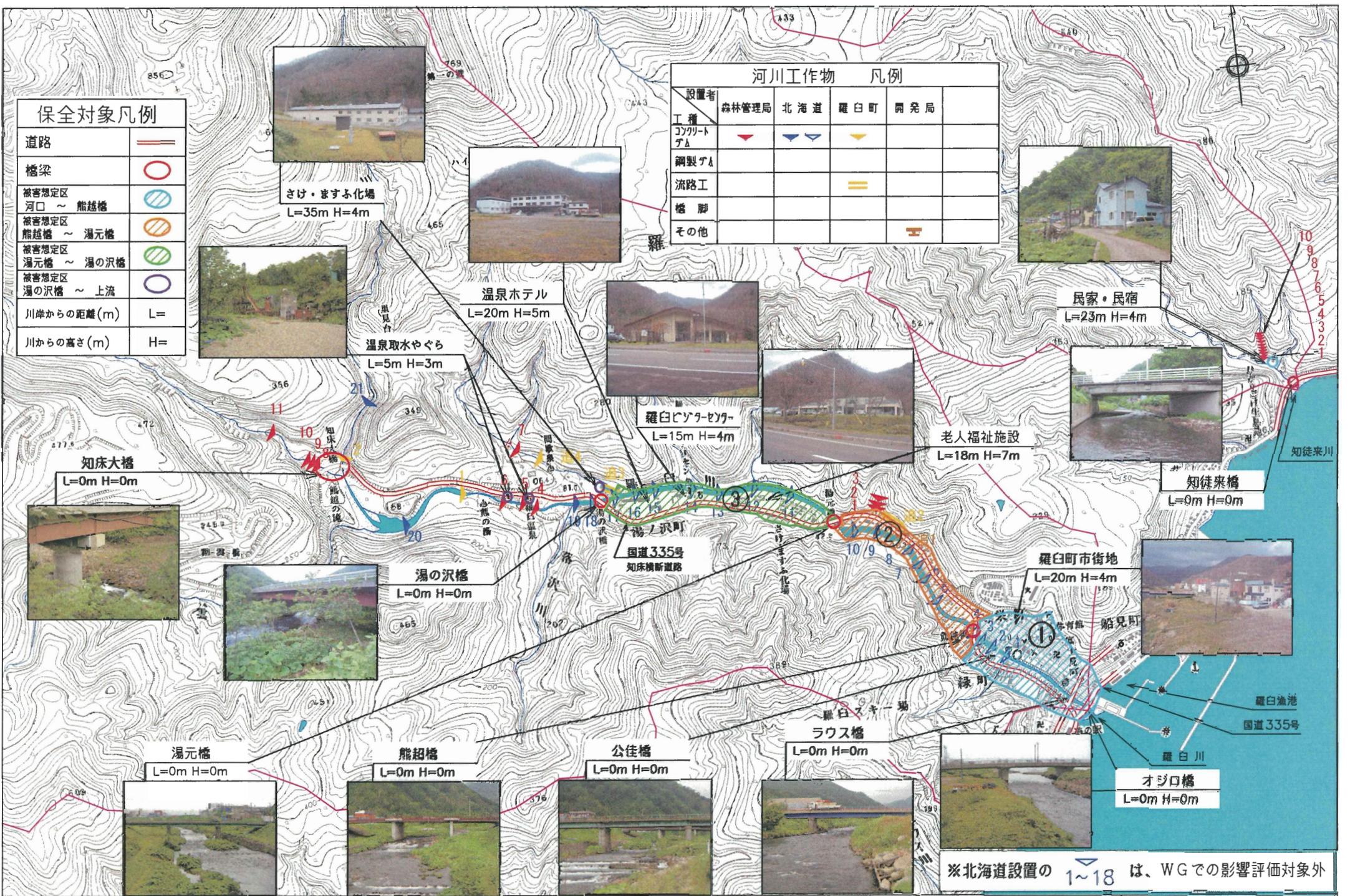


### 保全対象凡例

道路	==
橋梁	○
被害想定区 河口 ~ 熊越橋	①
被害想定区 熊越橋 ~ 湯元橋	②
被害想定区 湯元橋 ~ 湯の沢橋	③
被害想定区 湯の沢橋 ~ 上流	④
川岸からの距離 (m)	L=
川からの高さ (m)	H=

### 河川工作物 凡例

設置者	森林管理局	北海道	羅臼町	開発局
工種				
コンクリート ゲム	▲	▲	▲	
鋼製ゲム				
流路工			==	
橋脚				
その他				■



※北海道設置の 1~18 は、WGでの影響評価対象外